

定期監査結果報告書

第1 監査の概要

1 監査対象

都市整備部 下水道課、産業振興部 観光振興課

2 対象期間

令和7年度（令和7年4月1日～令和7年8月31日）

3 監査の実施期間

令和7年9月3日(水)～令和7年11月25日(火) ※10月14日(火)ヒアリングを実施

4 監査の目的及び方法

この監査は、財務に関する事務の執行が法令等に基づいて適正かつ効率的に行われているかを主眼として、監査対象課より事前に監査資料の提出を求め、諸帳簿、証憑書類等を審査し、関係職員から説明を聴取して監査を実施した。なお、行政監査の視点に立った監査も併せて行った。

5 監査の着眼点

- (1) 財務に関する事務の執行（予算執行・収支・契約・出納保管・財産管理等）について
- (2) 市民サービスの向上と事務事業の取組みについて
- (3) 各課の事務内容と職務分担及び職員の勤務状況について

第2 監査対象の概要

（職員数は令和7年8月末現在）

1 下水道課 【全体 職員17名（うち管理職2名）、会計年度任用職員2名】

業務係 【職員4名、会計年度任用職員1名】

下水道使用料、受益者負担金及び分担金、公営企業会計、下水道事業に係る資産の管理・取得及び処分、下水道事業の経営及び経営改善戦略、排水設備資金の預託、西川流域下水道等に関すること

計画管理係 【職員4名、会計年度任用職員1名】

下水道事業計画、下水道台帳の整備・保守、下水道施設の運転・維持管理、下水道事業の供用開始、下水道の普及促進、排水設備、広域化・共同化計画等に関すること

工務係 【職員7名】

下水道整備計画、交付金の要望・申請、下水道整備工事の設計・施工・監督、下水道管渠及び施設の改築更新等に関すること

- 2 観光振興課 【全体 職員 10 名(うち管理職 2 名)、会計年度任用職員 1 名】
観光企画係 【職員 5 名、会計年度任用職員 1 名】
観光施策の企画及び立案、観光宣伝及び観光客の誘致、観光行事等、観光資源の保護及び育成、観光施設の整備及び維持管理、広域観光及び観光関係団体、産地産品の宣伝、移動露店、各地域のまっりの連絡調整、観光交流等に関すること
産業観光係 【職員 3 名】
産業観光、産業史料館、(一社)燕市観光協会との連携調整等に関すること

第3 監査の結果

1 下水道課

(1) 調書・聞き取りによる確認事項

- ア 合併 20 周年の節目にあたり、旧 3 市町の特徴が描かれたデザインのカラードesignマンホール蓋の製作を予定している。製作したマンホール蓋は、市役所前の歩道に設置するほか、展示用として下水道フェア等のイベントで活用する。また、このデザインによるマンホールカードも製作する予定であり、カードの配布により多くの人から燕市に足を運んでいただき、下水道への興味をもってもらうとともに、燕市の魅力も発信していきたいとしている。
- イ 下水道使用料見直しに関する住民説明会を下水道計画区域内 9 会場で実施し、参加者は 24 名であった。参加者からは様々な意見、質問等があったが、使用料の見直しについては概ね理解いただけたと認識している。
- ウ 下水道接続促進のため、下水道未接続世帯の多い自治会を対象に、年 2 回のチラシの回覧や戸別訪問を実施している。チラシの内容を分かりやすく修正したり、下水道へ接続することで悪臭や堆積物の低減効果が早期に見込まれる世帯を戸別訪問の区域に取り入れるなど、様々な工夫を行っている。今年度の下水道接続率の目標は 76.3%であるが、現在までの排水設備確認申請受付件数では目標値に届かない見込みであることから、引き続き公共下水道へ接続することのメリットをアピールし、接続促進を実施していきたいとしている。
- エ 「燕市下水道フェア」は、これまで 9 月 10 日の「下水道の日」に合わせて開催していたが、暑さ対策として今年度は 9 月 27 日に開催し、来場者は 158 名であった。イベント内容は「処理場探検ツアー」「水環境の出前授業」「はたらく車の乗車体験」「マンホール缶バッジの製作体験」などで、子どもから年配の方まで、幅広い年齢層の方が参加された。
- オ 特定の係に時間外勤務が集中している状況である。上半期に業務が集中したことが主な要因であるが、経験の浅い職員もおり、係内でも業務量に偏りが生じている。課内での応援体制の確立や、積算支援業務量を増やすなどの対応により、時間外勤務削減に取

り組んでいきたいとしている。

(2) 意見

カラーデザインマンホール蓋製作については、合併20周年の節目に記念のカラーデザインマンホールを製作し、各種イベントでの展示やマンホールカードを配布することで下水道についてさらに関心を持ってもらい、燕市の魅力も発信して集客につながることを期待したい。

下水道使用料見直しに関する住民説明会については、参加者人数からすると周知の努力が足りなかったと思われる。今後は自治会長への声掛けや、まちづくり協議会などを活用して周知するなど検討いただきたい。

下水道への接続については、職員が未接続世帯の戸別訪問をするなど手間と時間をかけているが接続に至らない。接続をしない要因として、費用が高額になることや既存の浄化槽がまだ問題なく機能していること、また接続の時期などがあげられるが、接続後の費用の比較や環境に対するメリットなどを理解してもらえるよう、引き続き接続促進に向け積極的に取り組むよう努められたい。

毎年9月10日の下水道の日に合わせて開催している下水道フェアは、多くの人に下水道の仕組みや役割を知ってもらい、体験を通し、興味や関心を持ってもらえるよい機会である。今年はほかのイベントと重なったこともあり、昨年より参加者が少なかったものの、幅広い年齢の方が参加し好評だった。また暑さ対策のため開催日を遅らせたことも参加者に対しての配慮が感じられた。今後も安全性や快適性を重視しながら、参加者が安心して楽しめるようなイベントを期待したい。

時間外勤務については、時期的な業務の集中により時間外勤務が発生することもあるようだが、時間外勤務の削減に向け応援体制の確立、外部委託を増やすことの対応を行っている。業務の経験や能力によって係内でも偏りがあることが課題であるが、職員が体調を崩さないような年間の業務量を見て工夫をするなど、時間外勤務の削減に向け取り組んでいただきたい。

2 観光振興課

(1) 調書・聞き取りによる確認事項

ア 燕・弥彦広域観光連携会議では、首都圏等観光PR事業として、台湾および香港からのインバウンド誘客促進に向け、海外エージェントに対するプロモーションの実施、旅行商談会やターミナル駅における観光イベントへの出展、産業観光の募集型団体ツアーを造成した旅行業者への経費の一部補助などを行った。課題であった二次交通へ対応するため、燕三条駅、弥彦温泉発の域内を巡る観光タクシー（6コース）の運行事業も実施した。また、新たにショート動画等を作成し、首都圏等で開催されるイベントで掲出するなど、積極的なプロモーションを展開していくことで、さらなる観光誘客につなげていきたいとしている。

イ 産業史料館では、これまでの伝統的なものづくりに加え、令和6年度に導入した3D

プリンター、レーザーマーカ等デジタル機材や、土蔵を改修したミュージアムショップを活用し、過去から未来へつなげる「ものづくり」を核にした事業を実施している。

産業史料館の令和6年度の入館者数は、過去最高の24,598人で、インバウンドも増加している。体験工房館でのものづくり体験件数も増加しており、入館者の約半数が体験メニューを実施している。今後も、引き続き多くの人から来館いただけるよう、企画展も含め魅力ある展示や、産業史料館の情報発信に努めていきたいとしている。

ウ 燕ソウルフード観光プロモーション事業における「燕背脂ラーメンシール祭り」は、燕市のソウルフードである背脂ラーメンの認知度向上と観光消費額の拡大を目的に、令和5年度からスタートし、今年度で3回目となる。幅広い人たちに背脂ラーメンの魅力を伝え、新規のイベント参加者を獲得するための取り組みとして、グルメインフルエンサーを起用してSNSで情報発信をしたほか、応募の景品に人気色を取り入れて毎年変更するなどの工夫も行っている。いかにリピーターに飽きられず、新規参加者を増やすかが課題である。

エ 令和7年度は、携帯電話基地局の通信情報を用いた客観性や信頼性に優れた人流におけるビッグデータ調査により、本市を訪れる国内観光客・訪日外国人観光客の動態調査を実施している。人流を把握することで、効果的なPR手段と機会の創出頻度、時期の決定など、限られた予算の集中投資とマンパワーを含む業務の見直しをすることを目的としている。

また、旅行者の声を直接聞くためにアンケート調査も実施しており、新潟空港、新潟駅、道の駅ながおか花火館、弥彦おもてなし広場の4か所で燕市の観光意向調査を実施した。人流データの調査結果と、アンケート調査結果を総合的に分析し、燕市における観光分野の現状と課題を整理している。

オ 現在、地域おこし協力隊の「国上地域活性化業務」について、ホームページや移住イベントなどでPRを行っている。今年度に入ってから2名の方が本業務に興味を示され、業務説明を行ったが、採用には至らなかった。採用につながらないことを考慮し、国上地域の活性化を図るための任務としての大枠の変更はないが、細かな業務内容の見直しを検討していく方針である。

(2) 意見

広域観光連携については、長期間にわたり弥彦村と連携し、海外でのプロモーションや観光イベント活動を行っている。これらを継続的に行うことでインバウンドの集客効果に繋がってきていることは評価できる。海外等の訪問を最大限に活かし、燕市の魅力を効果的に発信し、集客につながる結果を期待したい。

インバウンド効果もあり、産業史料館の入館者が前年度に比べ増加している。土蔵の土壁を親子で塗る体験や鎚起銅器製作体験など燕市特有の「ものづくり」体験をはじめ、趣向を凝らした各企画展を開催するなど独創的な取り組みが入館者の増加につながった

と評価できる。土蔵をリニューアルしたミュージアムショップも今年 5 月にオープンし、今後さらに来館者が増加することを期待したい。

燕ソウルフード観光プロモーション事業については、幅広い人たちに背脂ラーメンの魅力を伝える「燕背脂ラーメンシール祭り」は今年で 3 回目となる。グルメインフルエンサーを起用し、新規参加者獲得に向け取り組んでいることや燕市の製品を景品とし燕市の産業の宣伝につなげるなどのアイデアを出し努力していることは評価したい。マネリ化によりリピーター離れとならないように、新たな発想や工夫を取り入れ、運営方法の見直しに努められたい。

燕市観光動向調査業務委託については、観光振興プランを策定するための基礎資料として活用するために行った調査だが、細かなデータ分析を行い、民間の観光業者と方向性を共有しながら観光誘客の成果につながるような取り組みに期待したい。

地域おこし協力隊については、今年度に入って興味を示した人が 2 名いたが採用に至っていない。三大都市圏等からの移住が前提となっており、条件に合う人材が見つからず、困難を感じるが、業務内容や条件などを見直し、検討を図られたい。

観光協会ホームページの改修については、ホームページを利用する人にわかりやすいように、写真や絵などを重視しリニューアルすると説明があった。今後は県とデータのやり取りができるよう構築することで、情報共有ができ、観光の推進に活用できることを期待したい。

時間外勤務については、イベント関連の業務が多いためやむを得ない部分もあることは理解できるが、職員の健康面に配慮する必要がある。事業内容の見直しや委託等も含め検討し、時間外勤務削減に努められたい。